

金沢・町名由来 「近江町」

今回は、近江町です。「さあ、いらっしやい、きょうは魚安いぞ、まけとく母ちゃんイワシいらんか」威勢のいい若者のそんな掛け声が飛び交います。決して上品な言葉ではありません。はっきりいって騒音です。それがちっとも苦にならず、温かい庶民の響きとして伝わってくるから不思議です。やはり官許・金沢青草辻市場という看板のもつ重みなのでしょう。金沢の台所として一日3万人の人を集め、県外の観光客からも異色の市場風景として人気を呼んでいる近江町は、藩政以前からのいわゆる尾山八町の一つです。町名の由来は、なんでも近江の国太上天の商人が天正年間にここに住みついたためといわれます。一説には魚を見ると書き、魚見で、この地に魚市をたてたことからおこった町名ともいわれますが、これはどうも後でとってつけたような話で、信頼性が薄いようです。たしかに藩侯膳所御用の魚や鳥を蓄える場所であったことは史実によっても明らかですが、直接それは町名と結びつきません。というのは町名は尾山八町の一つで、藩政以前からすでに存在していたからです。近江商人といわれるくらいだから、たぶん魚や鳥の商集団ができるまでは雑貨などを営んで生計をたてていたのでしょう。現在の近江町市場ができるまでは金沢に二つの市場が

ありました。一つは袋町から上今町にかけての浅野川口市場で、もう一つは堅町入り口の犀川口市場でした。安宅や本吉、相川方面でとれた魚は犀川口へ、また宮腰、大根布、荒屋、高松方面でとれた魚は浅野川口へ運ばれる習慣になっていました。ところが、能登や七尾、越中の氷見、放生津の魚が地理的に便利のため、浅野川口市場へ運び込まれるようになり、一方的に袋町かいわいがにぎわったため、五代藩主綱紀の代の享保6年に二つが合併して、いまの近江町市場の場所へ移転しました。青草辻とか朝市としてにぎわいましたが、明治になるとさびれたため、これに活を入れたのが官許青草辻市場です。



事務局だより

- 11月6日 理事会
 - ①総務委員会より、(株)湯浅惣兵衛本店脱退の件
 - ②労務委員会より、労働事情実態調査の実施と労務管理講習会開催について
 - ③情報物流委員会より、物流改革セミナー開催について
 - ④厚生委員会より、ゴルフ大会とスキーツアー実施について
- 11月7日 短時間労働者雇用管理改善等事業推進委員会
 - ①視察研修について
- 11月14日 労務管理講習会
 - 「話し方研修」
- 11月21日 情報物流委員会 正副委員長会
 - ①物流改革セミナーの最終確認について
 - 物流改革セミナー
 - 「小売業からみた物流改革」
- 11月27日 労務管理委員会
 - 「給付金制度説明会」
- 12月1日 財務金融委員会
 - ①運転資金転貸について
 - ②商工中金増資について

- 12月4日 理事会
 - ①富木副理事長より、金沢問屋センターLAN化計画を説明
 - ②会館運営委員会より、会館使用料焦付について報告
 - ③総務委員会より、新年互礼会開催日程について
 - ④財務金融委員会より、運転資金転貸と商工中金増資について
 - ⑤企画事業委員会より、経営者研修会開催について
 - ⑥労務委員会より、合同求人説明会実施について
 - ⑦建設委員会より、団地内一斉清掃について
 - ⑧厚生委員会より、行事予定について
 - ⑨広報委員会より、広報誌発行について
- 12月11日 企画・事業、情報物流委員会 正副委員長会
 - ①視察研修について
- 12月14日 厚生委員会 正副委員長会
 - ①第14回商社対抗ボウリング大会について
- 12月18日 会館運営委員会
 - ①収支報告について
- 12月20日 企画・事業、情報物流委員会 正副委員長会
 - ①情報化セミナーについて

金問屋センターニュース

1996.1 No.64

協同組合 金沢問屋センター 金沢問屋町2丁目61番地 ☎37-8585 ●発行者/宗廣満夫



金沢流通会館・大ホール パルスの緞帳

30周年に向けて

(協)金沢問屋センター
理事長 宗廣満夫

皆様、明けましておめでとうございます。新しい年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。
当組合は、昭和42年10月の団地完成以来、本年で29年を数えることになり、この間、組合員、関連企業各位の企業努力や集団化の効果はもとより、国、石川県、金沢市、金沢商工会議所、石川県中小企業団体中央会、取引金融機関の皆様方の温かいご指導、ご支援により、来年はいよいよ30周年という1つの節目を迎えることとなりました。関係各位のご尽力に深く感謝申し上げます。
さて、昨年は、日本経済全体が依然として低迷のうちに終始した厳しい年であり、我々、流通業にとっては、規制緩和に伴う大型小売店の相次ぐ進出の影響もあり、脱退する組合員も出るなど、厳しいうちに1年の幕を閉じました。今年、内外にわたる閉塞的な状況を打破し、来たる団地完成30周年に向け、明るい未来への展望を描くためにも、全国各地の卸商業団地が、それぞれの考え方で手掛け始めていると同様に、当組合でも新しい街づくりに伴う団地再整備、再開発を検討していかねばならない時期に来ており、より具体的な方向づけが求められています。
まず第1に、県庁舎の駅西移転計画を機に、交通網の整備が必要不可欠であり、橋・道路・立体交差の3点の建設計画を促進したいという点につきましては、皆様のご尽力により、実現化に向けて、大きく前進しております。
次いで、光ファイバーを当組合内に敷設するというインフラの整備を行い、マルチメディア社会への対応と情報の共通化を推進することを狙いとしたLAN化を考えております。この事業計画については、新年度に設置を予定しております30周年記念事業特別委員会の活動とも合わせて、研究と協議を重ねていかなければならないと考えております。
そして第3には、新たな感覚から将来構想の一助となる刺激と提案をしていただくためにも、若手経営者と幹部社員で構成する近代化研究会が計画しておりますアメリカ流通業視察研修報告に、期待をしております。
以上3点を、これから組合発展の礎となるためのステップとして位置付けており、今年も、皆様方との「対話」を通じて、1つ1つ前向きに実現できるよう「行動」する所存でありますので、より一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。
終りに、組合員各位のご繁栄、ご健勝を祈念致しまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

'96 新年互礼会

恒例、協同組合金沢問屋センターの新年互礼会は、1月4日午後2時より金沢流通会館パルスにおいて、来賓、組合員 270 名が参加して行われた。

国歌斉唱に引き続き、宗廣理事長から挨拶があった。次いで、奥田衆議院議員、沓掛参議院議員、宮商工会議所会頭、谷本県知事、山出市長より祝辞を賜り、宇野県議会議員の発声の下に乾杯を行い祝宴に移った。

盛宴の中、大塚県商工労働部長の音頭で万歳三唱し、本年も盛況の内に終了した。



年 男 大いに語る



還暦を迎えるにあたって

ハットリ産業(株)
社長 服部 厚三

新年おめでとうございます。
本年は子年ということで、私も5回目の当り年を迎えることとなりました。
昨年は、戦後50年ということで何かと騒がれた1年でありました。また1月17日の阪神大震災に始まり、オウム事件による一連の容疑者の逮捕等々、何かとバブル崩壊後の日本を象徴するような一年であったように思われます。
第二次大戦終結以来、日本は急速な経済発展を遂げてまいりましたが、節目でもあります。戦後50年を境にして何かぶちあたったように思われます。私も含めまして、国民の1人1人が大切な何かを忘れてはいませんか。第二次大戦中祖国の為に異国の地に若き生命をささげ散った尊き犠牲を無にすることはできません。
私は長嶋ファンですが、それは同じ子年生まれであるからです。ヤクルト野村監督、オリック

スの仰木監督、三監督共60歳であります。この三監督が、異口同音に、今の若い者の扱いが難しい、使いくにくいということでもあります。
我々は飢えの苦しみも知り、福井、富山の空爆をも見、そして今日までひたすら努力をしてきたのではあります。戦後生まれの若者達は何の苦しみも知りません。前述の監督共々、これからの日本を背負っていく若者達の指導の大切さを知らねばなりません。人間は老いてはいきますが、それにつれて責任の重大さは大きくなっていくのではないのでしょうか。
昔を懐しみ、今日の生活に感謝をし、そして若者達との融合をはかりつつ、さらなる前進をしようではありませんか。
皆様方には、今年一年が良い年でありますよう念じる次第であります。



しなりと節目

加陽月星ゴム(株)
社長 竹内 重則

皆様、あけましておめでとうございます。
私は昭和23年子年生まれで、人生を竹葉に例すれば、節目を4回迎える48歳。
円高、価格破壊、産業構造の空洞化、激変の世を迎える新年、まず「しなり」ハード面の「知識、プラス、ソフト面での「知恵」が21世紀への橋渡しを演じてくれるかの様に思われます。
顧みますに節目の一節は、安堵の内でのベビーブームの中で、家族の愛に抱かれ、二節では、平和の内

理性と可能性を求め、三節では、安定の内では社会人の幼子として教を刻み、四節では、好況の中に実践と存在を求め、五節をむかえ、不安の内には責任を求められる今日、未来を感じながらの丙子平成8年、節目はある面では出発を意味し、十二支のスタートは子より始まります。この経営環境の激しく揺れ動く中で、私は『自からの行動を変えよ……それを習慣となして「真実不慮、前に向かって精進せよ」をモットーに、夢を求めたく思います。



一生勉強

多田与(株)
社長 多田 利明

私は昭和23年の子年生まれです。いわゆる団塊の世代です。この約48年の間にいろいろな変化が有り、

写真を見ているだけでも楽しく感じられます。しかし、最近では性急にめまぐるしく変化していきます。

もう少しゆっくりしてくれないかなと思います。

近代化研究会で、現在変わりつつあること、これから起こるであろう変化のための勉強ということで視察に行き、施設を見学したり、講演を聞いたりさせていただきました。流通業では、今、ディスカウントあるいは激安という単語が氾濫しています。いかにも安ければいいというように誤解されています。これだけ物があふれていて、製品が似ている時に、何を基準に選択されているのかを考えてみなければなりません。たとえば、屋根に穴があいて雨が漏る、とお客様が言うと、素材は何ですか、こういう組み立てですか、と全部聞いて、これとこれを持って行って、この道具でこうしてやりなさいと教える。これは家にある。じゃあ、これは買わなくていい。この接着剤は似たようなものがある。でもそれはこの素材にあいませんから、これを買いなさい。と教えるのが接客だと教えられたことがあります。お客様は生活に実際に役立つことの満足によって物を買うのではないかと思います。価値にお金を出すようになってきています。価値とは、それを生活でどう活かして使ったかであると思います。

以前、「鬼と人と」という本を読みました。織田信長という絶対王制の合理性を追求した創造的な天才と、過去の経緯にも世の評判にも従順だった常織的な秀才の明智光秀では、同じ事柄、場面を、もの見方、考え方でこれほどまでに違いがあるものかと考えさせられました。新しい振る舞いや新しい事

を考え実行するのと、他人の振る舞いを見抜くだけでは天と地の差があり、常に新しい方法を考え、新しい仕組みを作ることを怠ると時代の変化に立ち遅れてしまい、人は育たないし、世も進まないという信長の考え方、天下統一のためには、悪を許す悪を無くさなければならないという厳しさを光秀が考えつかなかった。この違いはどこから出てくるのでしょうか。

人間というのは、地球上のどこかで百万人の餓死する大飢饉が起こっても、当人にとっては自分の歯痛の方がはるかに重大な事件であり、首に出来たおできの方がアフリカで地震が起こったよりも大きな関心事であり、人間の持つ性情のうちで最も強いものは、他人に認められることを渴望する気持ち、すなわち自己の重要感ということだそうです。

自分自身のこともよくわかりません。まして人のことや考え方もよくわかりません。この先の変化もわかりませんが、一生懸命勉強していきたくと思っています。

「すべて人にせられんと思うことは、人にもまたそのごとくせよ」と、キリストの言葉にもあるように、常に相手の立場に身を置き、相手の立場から物事を考えるようにしていきたいと思っています。

「およそ人は、幸福になろうとする決心の強さに応じて幸福になれるものだ」

エーブラハム・リンカーン



甘え世代の年男が誓った事

織田寝具(株)

社長 織田和弘

私は昭和35年子年生まれです。

35年といえば、岩戸景気からいざなぎ景気へと日本の高度成長の始まった頃です。各家庭には、電話やテレビ等の電化製品が揃い、現在の生活に近づいてきた頃です。いわゆる、昨年NHKで放映された「35歳」という番組そのものの世代の一人です。

今年は子年という事で、年頭の訓示の中では十二支のスタートの年であり、12年毎に株価の上がる年、又、ねずみ算式に繁栄する縁起の良い年だと皆様か語っておられました。

中央では政権も変わり、国民の今年こそはとの期待が高支持率にあらわれ、私も期待通りの政治を願っております。

私個人の事といえば、先代から引き継いで2期目が終わろうとしている二代目の社長です。現在のところ先代が築いた商売の基盤を守る事に一生懸命で、

まだまだ自分のカラーを出すところまでたどり着きません。

そんな私でも色々な夢があります。私共の企業は寝具専門であり、自社生産機能を持った「製造卸業」です。全社員共々、よりよい商品をより安くをモットーに安らぎと夢を提案する企業として成長する事です。多少世の流れに逆らいながら、本来の正当な商売が出来る事を願っておりましたところ、幸いに我々の願いが伝わったのか、価格破壊=品質破壊の悪い風潮に対し、公共機関による指導が行なわれました。

布団といえば中身の見えない商品ですので、お客様と売方との信頼関係だけです。そこでよい商品を的確なプライスで双方共に満足のいく取引をしていきたいと思っています。

現時点で、私は仕事と日常の雑務に追われ、趣味

最後に、年頭に誓った事を一つ……

“北陸に織田寝具あり”と皆様にいわれるような企業に成長している事を誓います。

(有)ネーミングこしの

社長 越野勉

こういう時代は、もう目の前まで来ているのではないのでしょうか。現にこれらの状況は一秒一秒普及しています。今日の情報化技術の発達、便利さなど、さまざまな利点はあるものの私達にとってはあまり歓迎できるものではないのかもしれない。しかし生活環境が変化していく以上、それに対応していかなければなりません。

「未来の兆しは現在にある」アメリカの哲学者Mマクルーハンの言葉です。いいかえれば、未来はある日突然やってくるのではなくて、現在の私たちの日常の中に、すでにその兆しを見せている。したがって、未来を知りたいと思うならば、まず、現在を広く深く洞察すれば、そこに未来を予測する手があるのではないのでしょうか。

今年は十二支のトップバッターの子です。政治、経済共決して安定しているとはいえない今日ですが、心新たに皆様と共に頭を働かせ、行動し、トライする。そして希望ある「未来」に向かっていきたいと思っています。

や特技が何もない為、気のきいた文章の一つも書けません。もう一度チャンスをいただければ、それ迄に人間の大きさ、豊かさが自然に身についた文章を書けるように努力したいと思います。



未来

あけましておめでとうございます。

平成8年を迎えて……今年はどうな年になるのだろうか、景気は上向きになるのだろうか、などと考えながら元旦は書き初めに「未来」と書きました。

1999年のある日「おはようございます。7時です」と告げるコンピュータ合成の声で目を覚ました。すでにエネルギー・コントロールシステムは稼働していて、室内の温度も湿度も最適に調節されている。ケーブルテレビのニュースを観る。必要ならばボタン一つでそのニュースの内容がFAXで送信される。かつての新聞配達はずでなくなっている。書斎に入りキーボードをたたき会社を呼び出す。今日の行動予定がディスプレイに映し出される。必要な情報やデータは、会社のデータバンクを呼び出せばリアルタイムで入手できる。週のうち2日ほど会社に出向くだけになり、通勤ラッシュもなくなった。買い物は、ほとんどテレビショッピングを利用し、ファッションや日用品などパソコンを使って発注する。余った時間には、カルチャーセンターやスポーツクラブへ行く。

あなたの会社は
だいじょうぶですか？

株式会社1,000万円以上
有限会社300万円以上
達成のためのタイムリミット目前に迫る！

平成2年の商法改正により、会社に最低資本金制度が導入され、平成3年4月1日から株式会社の資本金は1,000万円以上、有限会社は300万円以上であることが義務づけられました。

最低資本金制度は、改正商法の施行日以前から存在していた株式会社や有限会社にも適用され、既存の会社については、平成8年3月31日までにこの金額を満たさなければならないこととされています。

もし、この時期を過ぎても最低資本金額を満たしていない場合は、官報による法務大臣の公告(警告)

最低資本金を
満たさない会社は

“解散”!

があり、その後2ヵ月を経過した日に会社は解散したものとみなされ、解散したものとみなされた会社は、それ以後は営業活動はできないこととなり、多大な支障が生じるだけでなく、会社の存立自体が危うくなることとなります。

当団地の組合員は全てこれをクリアしてありますが、解散された会社は清算会社となり営業活動はできませんので、各社のお取引先の資本金を調査され、事前に対応された方がよろしいかと思います。

1996年度経済見通し



北陸銀行金沢問屋町支店
支店長 吉田 清男

謹んで新年の祝辞を申し上げますとともに、日頃のご愛顧に対し、厚く御礼申し上げます。

昨年は戦後五十年という大きな節目の年でありました。阪神大震災などの天災や、サリン事件といったショッキングな出来事も多く発生いたしました。その中、日本経済は「回復感なき景気回復が95年は本格化するのでは」という期待が大きい年としてスタートしましたが、年明けからの大震災、衝撃ともいえる超円高等による企業収益の悪化、個人消費の伸び悩みをはじめ、資産デフレの長期化等により、景気の腰折れ懸念が強まり、足踏み状態で終始し、政府の総合経済対策や、公定歩合の最低水準までの

引き下げにもかかわらず、当初予想したほど本格的な回復の年とはならなかった。

96年度の経済見通しについては、野村総研をはじめ、北陸経済研究所など全国45社のシンクタンクの見通し平均によりますと、93年度からゼロ成長近辺にとどまっている、GDP伸び率では、約1.9%と政府見通しより慎重ながらも強めに予測している。公共設備投資が若干強めで、個人消費、住宅投資が低調ながらも、いずれも前年を上回る見通しであり、デフレ傾向の収束を予測する向きが強く、96年度は名実逆転時代の終わりを予測するところが多い。

	GDP	個人消費	住宅投資	設備投資	公共投資	経済収支	為替相場
実績	0.9	1.7	-8.3	2.4	5.1	1,073	95.0
予測	1.9	1.9	-0.1	3.5	5.1	932	99.3

(表) 95年度の実績見通しと 96年度の予測 (45社平均)

GDPに大きな影響を与える個人消費については、家電製品や新車販売が好調で、消費支出も緩やかながら回復してきており、平成9年度以降の消費税の増税を見込んだ駆け込み消費が多くなると見る機関も多く、また、逆境のなかの消費性向の持ち直しを理由にやや強めに見ている。

次に、住宅投資予測は低金利、地価の下落で一般住宅投資には追い風であるが、オフィス事業やマンション販売の先行きが不透明なことと、貸家の回復が思わしくないため、強気弱気の分かれ目は低金利が着工のきっかけになるかどうか、また、震災復興需要が本格化するかというところであろうと考えられる。

更に、4年ぶりに前年度を上回る見通しの企業の設備投資は、収益環境の好転や、更新投資の必要などと、新たなリーディングインダストリー（情報・通信、電気機械）が牽引役になると考えられる。

公共投資は既に決定されている景気対策の追加分

の実施が、年明け以降に顕在化することから、年度前半は大きく景気を引っ張ると見られる反面、巨額の財政赤字、国債発行残高、税収の低迷で、96年度後半には大型予算が組みにくくなっており、政治の動向とも絡んで非常に不透明な状況にあります。

なお経常収支については、輸入の大幅な伸びで貿易黒字は縮小し、それにつれて、経常収支も縮小すると見る向きが多い。単なる、輸出入の伸びの差以外には、中期的円高による逆Jカーブ効果を挙げる所も多く、加えて、旅行などの貿易外収支の赤字増加も予測されている。なお、外需はマイナスでGDPの押し下げ要因になると考えられる。

もっとも動向が読みにくい為替相場については、構造的な問題が解決されないかぎり、ドル安円高が再燃するとする向きが主流で、昨年と同じく、現状の百円/ドル内外を予測前提とする機関が多い。しかしながら、日本の金融システムなどに対する不安、経済収支の縮小、特に低金利の長期化による資本の

流出を根拠として円安ドル高と見る向きもある。

以上を総合しますと、ようやく昨年末から回復の兆しを見せてきた96年度の景気は、デフレの衣服、為替の安定、個人消費・設備投資の回復で緩やかに回復すると見込む向きが多い。また、規制緩和、不良債権処理、土地流動化問題など、これまで先送りされてきた構造改革に着手すると同時に、景気の中期的な回復に繋げる基盤整備が進む年になるという期待が強い。加えて、財政再建などで政治的な選択をせまられる問題も多く、国政選挙の動向、米国大統領選なども絡んで、政治の行方が経済を大きく左右する年になると考えられます。

この様に、念願していた景気の回復に兆しが見えてきたと言いつつも、過熱気味の米国経済の行方、海外生産シフトによる空洞化の進展、更に失業問題から来る雇用不安、加えて、急激なる規制緩和に伴う変革など内外に不安定要因も多く抱える情勢下、組合員のみならずには、流通分野での革新、合理化努力によって次時代に相応しい物流発信基地へと展望され具体化されておられますが、今までに蓄積されました英知を結集され、産業構造の変化にうまく順応されながら、さらに発展されることを祈念しております。

初市風景

金沢問屋センター繊維同業会（山田治作会長）吉例の初市は、1月9、10日行われた。

悪天候にもかかわらず、出足は各社とも好調で、洋品ではブラウス、寝具では上代7,000円～8,000円の綿毛布や5万円以上の羽毛布団が、呉服では袋帯が堅調で、加賀友禅も100万円以上の品物が動きはじめてきた。

全国的に昨年末から好調に転じ、良い物が求められるようになってきたようである。

